

令和7年度新しい地方経済・生活環境創生交付分 事業実施結果 個票

交付対象事業名	デマンド交通導入事業			
事業の目的	現在、定時定路線のバス運行を主体として陸上交通を維持、運営しているが、利用者から様々な意見や要望が寄せられており、現行の運行形態だけでは多様な利用者のニーズに対応しきれない状況である。 今回、デマンド交通システムを町内の一部エリアに導入し、より自由度の高い運行を実現することで、交通利便性の向上を図り、交通弱者となる方々の生活の足となる移動手段の確保につなげる。			
個別事業の内容				
【計画】20,317千円			【実績】19,173千円	
【デマンド交通システム】				
○交通空白地で実施する自治体運営型の「公共ライドシェア」としてデマンド交通を運行する。			(利用登録者数) 275人	
○利用者からの申込受付、車両運行者への配車指示等を一括して行うオペレーションセンターを設置。			(利用件数) 1,640件	
○予約受付については、利用申込に対し、リアルタイムで効率的な運行ルートを作成をサポートする機能等を有するAIオンデマンドシステムを導入			サービスを開始して1年経過はしていないが、意見要望はかなり寄せられ改善ができるところは柔軟に対応を行った。	
○予約制による効率的な運行や需要に応じた乗降場所の設置など、より自由度の高い運行を実現し、定時定路線のバス運行では対応しきれなかった移動需要に応える。			1年経過した時点で利用状況がある程度可視化できることから既存の公共交通の利用状況と照らし合わせ地域公共交通会議で検討し、利用促進に向けた制度の更なる改善や継続的な利用者への電話による利用満足度に係るアンケートを実施し利便性の向上とPR活動の強化を行い、便利で利用しやすいサービス提供に向けた取り組みを図る。	
本事業における重要業績評価指標(KPI) ※目標年月はR7年3月				
指標	指標値 (2018～2024累計)	R7実績値 (2018～2025累計)	達成度	実績値に対する事業効果及び考察 (要因分析、要改善事項等)
① オンデマンド交通の利用登録者数	70 人	275 人	393%	当初は町内の一部エリアに限定して実装した。しかし、運行開始後、利用エリアを越えて町内の病院(診療所)に通院したいとの要望があり、ルートの追加を行い利便性向上に務めた。 サービス開始から、会員登録者数はコンスタントに増加している。利用者からは好評を得ているものの実際の利用者数は伸び悩んでいる状況。しかしながら、サービス利用者の利用満足度は高く、将来的な利用ニーズは潜在的に存在しているため、サービス内容や制度の周知を十分におこなうことで、利用者増加に向けたPRをおこない、交通利便性の向上に向けた取り組みを進めていく。
② オンデマンド交通の利用者数	3,800 人	1,640 人	43%	
③ オンデマンド交通利用者の利用満足度	3	4	133%	
上島町総合戦略等推進会議による評価			実績値を踏まえた事業の今後について(担当課)	
●総合戦略のKPI達成に有効な事業であったか ☒ 有効であった ☐ 有効とは言えない			●今後の方針 (発展 ・ 改善 ・ 継続 中止 ・ 終了)	
●事業実績評価 (非常に効果的であった ・ 相当程度効果があった ・ 効果があった ・ 効果がなかった)			●今後の方針の理由 サービス利用者の利用満足度は高く、将来的な利用ニーズは潜在的に存在している。今後、高齢化が進み公共交通機関の重要性は高まることから、利用者の声を聞き柔軟に改善を重ね利便性を高めながら事業を継続していく。	
●今後の方針 (発展 ・ 改善 ・ 継続 中止 ・ 終了)				

新しい地方経済・生活環境創生交付金

事業名	デマンド交通導入事業										
交付金の種類	デジタル実装タイプ TYPE1	総事業費 (千円)	20,317	計画額 (千円)	20,317	実績額 (千円)	19,173	担当課	公営事業課	担当者	村上 英則

事業の概要	取組内容	目標	目標達成度
本町は現在、定時定路線のバス運行を主体として陸上交通を維持、運営しているが、利用者から様々な意見や要望が寄せられており、現行の運行形態だけでは多様な利用者のニーズに対応しきれない状況である。 本事業の実施により、利便性の高い地域公共交通体制を実現し、交通弱者となる方々の生活の足となる移動手段の確保と地域住民の誰もが、時間や人に縛られることなく、出かけたい時に出かけたい場所に自由に移動できる地域づくりを目指ものである。 自由な移動は外出機会を創出し、外出機会の増加は心身を健康にし、地域の活性化につながり、豊かで幸せに暮らすことができる地域づくりに資するものとする。	会員登録した利用者が電話やWEBにてオペレーションセンターに利用予約をし、オペレーションセンターで予約の重複を確認したうえで、AIにより最適なルートを検索し、ドライバーに情報を伝達することで、効率的な交通サービスの提供をする。 利用者にとっては、定時のバス時刻に合わせた移動であったが利用したい時に利用できるバスとなり、また効率的なルートで目的地まで行けることが特徴となる。 もう一つの特徴としては、車両の道幅が確保できれば、自宅前や目的地付近での乗降が可能となり、高齢者などの交通弱者と言われる方々にとっては利用しやすい交通システムとなる。 ・ 利用者登録の促進(利用説明会の実施) ・ 利用の促進(利用説明会の実施) ・ 利便性の向上	① 利用者登録者数 70人 ② 利用者件数 3,800件 ③ 利用満足度 3(5段階評価)	① 利用者登録者数 275人 【目標達成度 393%】 ② 利用者数 1,640件 【目標達成度 43.2%】 ③ 利用満足度 4(5段階評価) 【目標達成度 133%】

事業計画(変更計画) (P)	実行(D) ※計画に対する実績	評価(C)・改善(A) ※実施後の分析、検証とその対策
利用者登録の促進(制度の周知)	集会所や下記団体の集まりに出向き、サービス内容の説明を行い制度の周知PR活動を実施。 説明会場でも申請の受付を行い、会員登録促進を行った。	これまでの定時定路線バスと違い車両の道幅が確保できれば、自宅前や目的地付近での乗降が可能となり、高齢者などの交通弱者と言われる方々にとっては利用しやすい公共交通となった。 サービス開始から、会員登録者数はコンスタントに増加しているものの、実際の利用者数は伸び悩んでいる状況。しかしながら、サービス利用者の利用満足度は高く、将来的な利用ニーズは潜在的に存在しているため、サービス内容や制度の周知を十分におこなうことで、利用者増加に向けたPRをおこない、交通利便性の向上に向けた取組みを進めていく。 【令和8年度事業計画】 福祉関係機関に協力を得ながら高齢者の集まる事業に参加しPR活動を行う。 ① 社会福祉協議会や各種高齢者団体が行う集まりへのPR活動、希望者への戸別説明実施 ② 利用者へのアンケート又は聞き取り調査を行い利便性向上、利用促進を図る
利用の促進(利用案内)	集会所や下記団体の集まりに出向き、サービス内容の説明と共に利用の仕方について説明。 実際に利用した方の声を届け、利用促進を図った。	
利便性の向上(交通不安の解消)	利用者が希望する自宅前での乗降りを可能な限り答えるため、地図で道幅が確認できない場所は実際に現場に道幅等確認し、希望場所に沿った乗降り行う場所(停留所)を設定した。	